

# 自己評価表による 身体拘束・虐待防止への取組み

～思いやりのある施設を目指して～

特別養護老人ホーム百花苑  
看護介護科 服部龍司



## 活動目的

「利用者の尊厳を侵し、自立を妨げる最たるものである身体拘束を廃止することによって、利用者本意の介護・看護を実現する」

# アンケートの実施

## 問1

あなたが考える身体拘束・虐待防止の具体的な内容を挙げてください。

## 問2

介護現場で実際に見られる行為のうち身体拘束虐待に当たるものを挙げてください。

## アンケートの結果

どのような事柄、またはどのような範囲までが拘束・虐待にあたるのか分からない。

## 結果分析

自分の言動に、拘束や虐待が含まれる可能性があることに気づいていなかった。

自分の不適切な行動・言動に気づけないため、ほかの職員に対しても気づけていない恐れがある。

# 自己評価表作成のねらい

- ① 自分の介護場面を振り返り改善につなげる事ができる。
- ② 拘束・虐待の知識を深めることができる。
- ③ 拘束・虐待がなくなる。
- ④ 接遇の改善につながる。
- ⑤ 介護の質(サービス)の向上につながる。

# 2009 自己評価 項目

食事介助

排泄介助

入浴介助

起床・就寝  
介助

移乗介助

就寝中の  
介助

接遇  
身だしなみ

全170問

# 自己評価の実施

- ①「場面ごとの禁止行為」、「話し方」の項目の該当するものにチェックする。
- ②自己評価の結果についての感想を記載する。
- ③改善目標を立てる。
- ④実施方法：4ヶ月に1回（年3回）

## 例) 食事介助

### 場面ごとの禁止行為

- 本人のペースを無視していませんか。
- 下膳の時間に間に合わせようと本人のペースを無視した介助になっていませんか。

### 言葉・話し方

- 早く終わらせようと、急かす口調になっていませんか。

### 考えよう

食事はその人にとってどのような意味を持っているのか。  
どうしたら楽しい雰囲気でも食事を摂ることができるのか。  
自分が食事をする際、何に一番気を遣っていますか？



# 自己評価実施結果

拘束・虐待に対する職員の意識が高まり目標を厳しく設定し取組むことに繋がった。

設問数が多い



煩雑さを感じる



職員の負担

曖昧な表現による設問



介護の場面が  
イメージしづらい



設問の意図を理解できず  
に見送られた可能性がある。  
る。

取り組みやすい自己評価表への変更

# 類似した設問をまとめる

## 例) 食事介助

- 一度に多く口に詰め込む介助をしていませんか。
- 本人のペースを無視していませんか。
- 下膳の時間に間に合わせようと本人のペースを無視した介助になっていませんか。



- 本人のペースを無視した介助になっていませんか。

# 設問のイメージをしやすく

## 例) 移動・移乗介助

○移動・移乗時に怖い思いをさせていませんか。



○身体をぶつけていませんか。

○必要以上に高く持ち上げていませんか。

# 『就寝中』の介助の 内容を見直し

## 例) 就寝中の介助

- 説明をせずに待たせていることはありませんか。
- コール時、PHSのみで対応していませんか。

『就寝中』に限らず、常時意識する必要性がある。



# 『常時対応』へ改訂

# 2009 自己評価表 (改訂)

食事介助

入浴介助

排泄介助

移動介助

起床・就寝介助

就寝中の介助

接遇・身だしなみ



食事介助

入浴介助

排泄介助

移動・移乗介助

起床・就寝介助

常時対応

全170問



全57問

# (改訂)自己評価実施

【対 象】 介護福祉士・介護職員

【実施期間】 平成24年5月～平成25年5月



# 自己評価表 実施した結果

イメージしやすい問いかけ



自分の身に置き換えられる



介護場面を客観視できる

設問数の減少



煩雑さの解消



実施負担の軽減



# 例) 食事介助

## 場面ごとの禁止行為

本人のペースを無視していませんか。



①  ②  ③  本人のペースを無視していませんか。

前回評価との比較ができ、自分の成長を確認できることで、仕事に対するモチベーションにつながる。

# (改訂)自己評価比較

## 【対象】

	1回目	2回目	3回目
1年未満	8名	8名	10名
1年以上3年未満	6名	6名	6名
3年以上5年未満	11名	11名	11名
5年以上	5名	5名	4名
合計	30名	30名	31名

## 【実施期間】

1回目 平成24年5月～平成24年8月

2回目 平成24年9月～平成24年12月

3回目 平成25年1月～平成25年4月

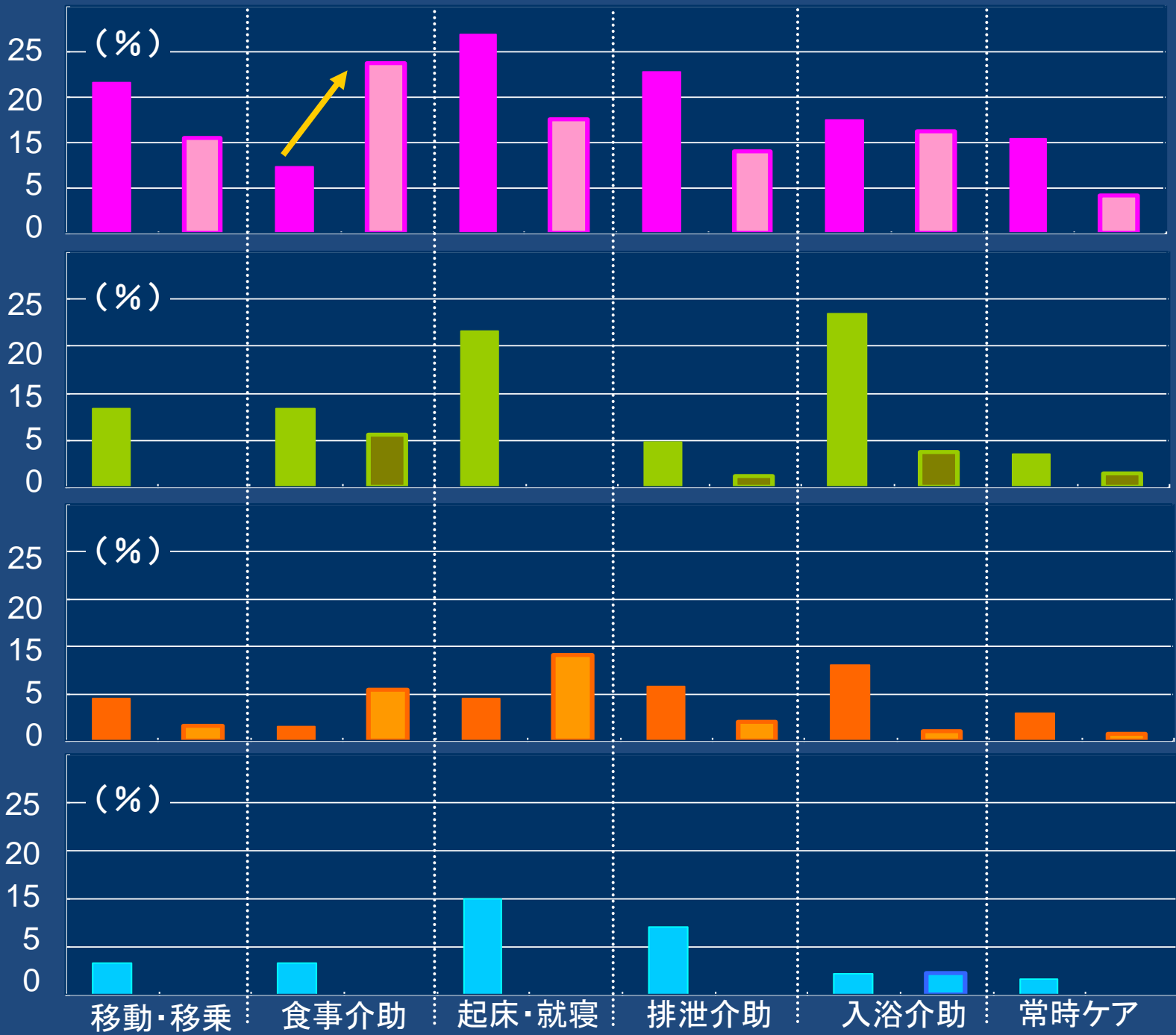
# 平均回答率 (1・2回目)

1年未満

1年以上  
3年未満

3年以上  
5年未満

5年以上



# チェック数の減少



職員の  
身体拘束・虐待に  
対する意識の低下。



正しい自己評価が  
行なわれていない。

新人職員の  
身体拘束・虐待に  
対する知識が少ない。



設問の意図を理解でき  
ずに実施している。

身体拘束・虐待にあたる行為を再確認することで基本  
(原点)に立ち返ることができるのではないか。



## 身体拘束ゼロへの手引き

～高齢者ケアに関するすべての人に～

厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦推進会議」2001.3発行



拘束・虐待を理解しやすくするため、

- 虐待・弊害の区分
- 身体拘束・虐待により起こりうる弊害

上記2項目に絞り周知を図る

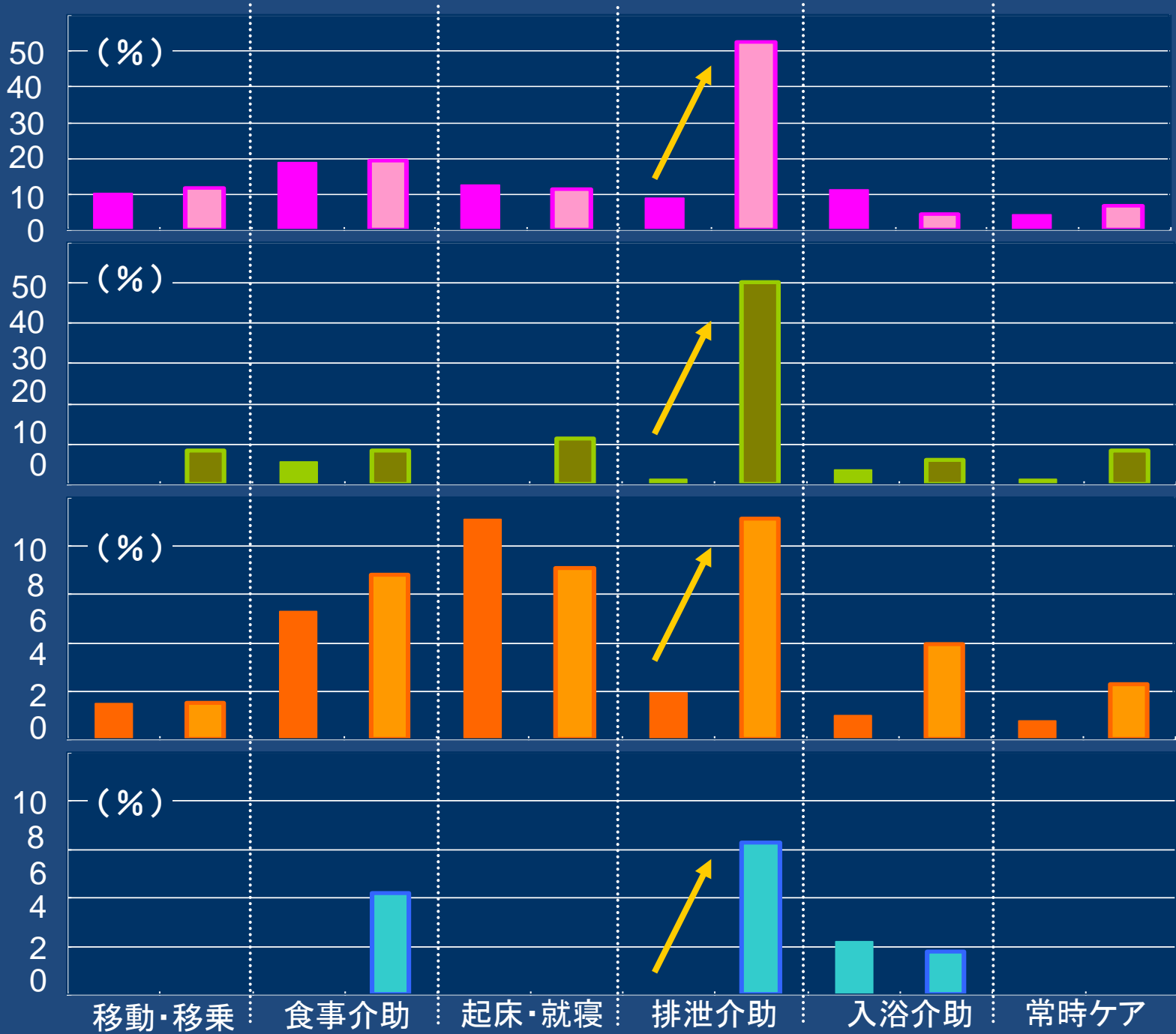
# 平均回答率 (2・3回目)

1年未満

1年以上  
3年未満

3年以上  
5年未満

5年以上



# 3回目の実施結果・分析

マニュアルの事前配布の結果



身体拘束・虐待により起こりうる弊害を理解したことで、自らの介護場面をイメージしてチェックできた。



介護場面を振り返った際、不適切であったと気づけたため、改善されると思われる。

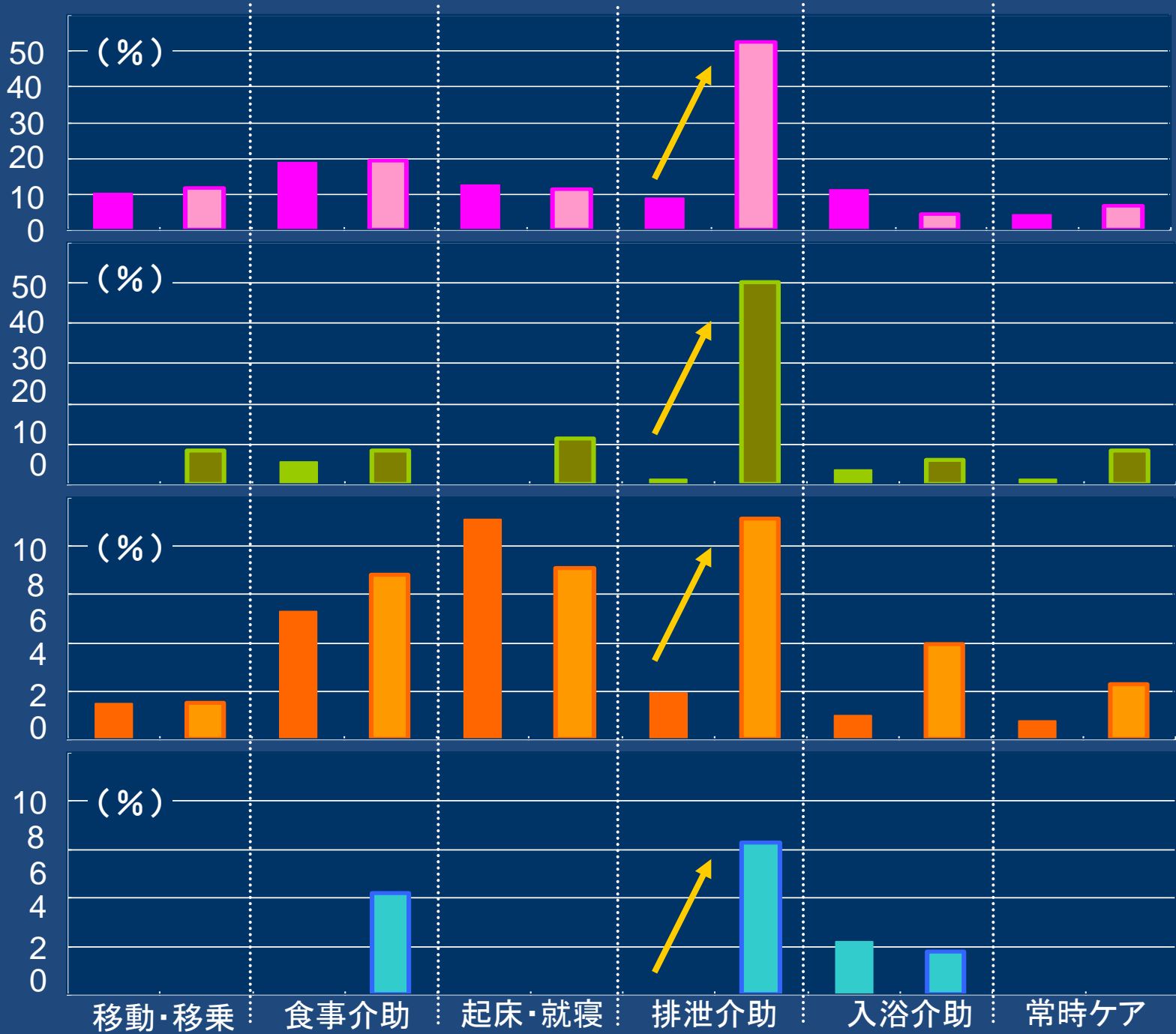
# 平均回答率 (2・3回目)

1年未満

1年以上  
3年未満

3年以上  
5年未満

5年以上





# 1年間の委員会活動の総括

- 自己評価の繰り返しだけでは、  
身体拘束・虐待への意識の維持・向上に  
繋がらない。
- 職員の意識の状態が自己評価の結果に  
繋がる。

# 今後の課題と取組み

## ① 自己評価表の評価と改善

○委員会以外からの意見を募る。

○チェック箇所に対する対策の記入と実践。

改善目標  
記入欄



- ・該当した項目
- ・該当要因の分析
- ・要因に対する対策法

# 自己評価 手順

① 自己評価 実施



② チェックの付いた設問をすべて挙げる。



③ チェックの付いた要因を分析し、  
対策を考える。



④ 自己評価実施まで、③で立てた  
対策を実践する。



# 今後の課題と取組み

- ② マニュアルの改訂
- ③ 見えてきた課題に対する  
「勉強会」の開催

# 今後の目標

『ケアの向上』

『思いやりのある施設』

を目指す。



ご清聴ありがとうございました。